

# たぐろ

TAKUSUI  
No. 640

2

February, 2010

発行 (財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



第34回淡路のり品評会審査の様子(2月3日 淡路水産センターにて)

## NEWS

### 第2回 兵庫県漁業協同組合長並びに参事・事務長合同会議開催

Report

“命を守る運動” 海上安全講習会開催

“なぎさの守人” シンポジウム2010開催

—藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯の保全活動事例発表会—

## JF姫路市が誕生しました！

去る1月1日に姫路市漁業協同組合が発足しました。

漁獲量の減少、組合員の高齢化等の組合経営を取り巻く環境が厳しくなる中、姫路地区8組合（大塩町・的形・八木・白浜・姫路市中部・飾磨・大津・網干）においても組合員の負託に応えるべく合併についての話し合いがなされてきました。この様な中、昨年1月に第1回姫路地区漁業協同組合合併推進協議会が開催され、12回におよぶ会議の末、昨年7月には

合併仮契約の調印を行いました。その後も合併に向けた協議を重ね、組合員・役職員の皆様のご尽力により組合員数351名（正組合員：228名 准組合員：123名）となる姫路地区8組合の合併が晴れて実現し、中澤卓生氏が代表理事組合長に就任されました。また、組合の本所は旧的形式漁協となり、他は支所となります。

なお、今回の合併に伴い県下の組合数は42となりました。

## 第2回 兵庫県漁業協同組合長並びに参事・事務長合同会議開催

去る平成22年1月18日（月）、明石商工会議所大ホールにおいて、108名の出席のもと、「平成21年度第2回兵庫県漁業協同組合長並びに参事、事務長合同会議」が開催されました。

会議の冒頭、主催者である3団体を代表してJF兵庫漁連の山田隆義会長より、また、来賓として兵庫県水産課の山村雅雄課長より挨拶がありました。山田会長は挨拶の中で、「魚価の低迷や漁業就業者の減少など、厳しい状況が続く中、本日の議事である、昨年10月のJF代表者集会で採択された新運動方針に基づき、本県としても積極的な取り組みを進めていく必要がある。」と述べられました。

議事に移り、JF全漁連の長屋信博常務理事並び

に同信用組織指導部の石川和彦部長より、新運動方針「JFグループ 組織・経営・事業戦略」について、方針策定の背景や重点取組事項、将来ビジョン実現のためのアクションプランの実践に係るJFの将来シミュレーションの実施等の説明がなされ、出席者は熱心に耳を傾けていました。

この運動方針は、厳しい漁業環境のもと、全国のJFグループが不退転の決意で取り組むことが決議されており、本県においてもJFグループ兵庫を挙げた運動として積極的に推進し、JF組合員の経済的、社会的地位の維持・向上を図っていきたいと考えていますので、関係各位のご理解とご協力をお願いいたします。



会議の様子

## “命を守る運動”を県下各地で展開 JF室津で「海上安全講習会」開催

水産庁によると、全国の漁船の海難事故や海中転落による死者・行方不明者は、平成15年から19年の平均で毎年約150名発生しており、また、全船舶の約6割を漁船が占めています。

兵庫県下でも、荒天による転覆や船舶火災も含め、毎年のように事故が発生しています。

そこで少しでも事故防止を図るため、JF兵庫漁連、兵庫県内海漁船保険組合、共水連兵庫県事務所、(財)ひょうご豊かな海づくり協会、(財)兵庫県水産振興基金の5団体は、第5管区海上保安本部、神戸運輸監理部、関西小型船安全協会と協力して、漁業者のみならずプレジャーボート所有者も対象に各地で「海上安全講習会」を開催することとしました。

第1回目となる今回は、平成22年1月23日にJF室津で組合員、女性部員、JF職員59名の出席のもと姫路海上保安部の上田真丘係長、森本整吾専門官、神戸運輸監理部の筒井宣利課長を講師として、「最近の海上事故例と事故

防止策」「ライフジャケット着用に関する法令について」と題して講演を行い、その後、JF全漁連資材担当の村上由香里調査役と神戸大学によるライフジャケットの試着会とアンケートを行いました。

講演は、最近播磨灘で起きた事故例をプロジェクターを用いて紹介し、防止対策や初期対応、ライフジャケット着用の義務など、危機防災意識の啓発に重点をおいた内容となったため、参加者は終始真剣に聴講していました。

続いて行われた試着会では、持ち込まれた30着のライフジャケットを組合員が試着し、その装着感や作業性についてアンケートに答えていました。

事務局では、この講習会を県下各地で展開する「命を守る運動」として位置づけ、各JFに通常総会などの組合員が集まる機会での開催を呼び掛けています。

《講習会開催の相談はJF兵庫漁連指導部まで》  
**TEL 078-940-8013**



満員状態となった講習会場



試着してアンケートに答える組合員

## “浜の力を結集しよう” (社)播磨漁友会総会で役割を再確認

新年松の内は今日までという1月15日、姫路市内のホテルで(社)播磨漁友会の臨時総会が開催され、平成21年度補正予算(案)や平成22年度事業計画及び収支予算案の設定など6議案が何れも原案通り可決決定されました。会員漁協の組合長をはじめ、県・漁協系統団体代表など34名が出席されました。

開会にあたり井上仁会長(JF岩見組合長)は「正月から沖は荒れ模様で2、3日しか出漁出来ていない。カキ養殖が大変なことになっていたが一部では少し追いついてきた様であり、ノリ生産も色落ち懸念はあるものこのこまでは順調に来ている。イカナゴ漁も希望がもてそうとの話もあり、豊漁を祈りたい。姫路管内8漁協の合併などで会員が18組合に減り寂しいが、厳しい環境下を乗り切るため共に力を合わせて頑張ろう」と挨拶された。また、来賓出席の県農政環境部山村雅雄水産課長が「過ぎた年は新水産会館で新たに船出したが、浜の方では自然相手の厳しさを痛

感させられ、新政権下の政治、経済情勢は先がよく見えない状況が続いている。目まぐるしく変化する社会のなか、漁友会の役割は一層重要となってきている」と挨拶され、続いてJF兵庫漁連山田隆義会長は新年の挨拶のあと「浜のために日夜努力されご苦労様」と各組合長の労をねぎらい「海底耕耘が大変効果を上げているという嬉しい話があった。瀬戸内海的环境再生に新法制定を目指しているが、我々が生業している海であり、自分たちに出来ることを地道にやって行くことは重要だ。自分たちの足下から見つめ直し、行政の役割、漁業者の役割を分担して海を守ってゆこう。一人一人の力は小さいが、漁協や系統団体が丸となって生業する海を大切にしていけることが新しい時代を開くことにもなる。漁友会がそのリーダーに」と、力の結集に期待を込めて挨拶された。このあと、総会はJF姫路市中澤卓生組合長を議長に選任し、滞りなく議事進行され閉会しました。

## 「大阪湾の海況に関する勉強会」 豊かな海を考え海へ恩返しする



満員状態となった会場

平成22年1月23日(土)、大阪湾海域の不漁の原因とこれからの取り組みを考えることを目的とした、東浦水交會主催による「大阪湾の海況に関する勉強会」が、淡路市佐野の日進丸において、会員組合の漁業者ら約180名の参加のもと実施されました。

東浦水交會の西岡勇会長(JF炬口組合長)からの開會挨拶、兵庫県立水産技術センターの近藤敬三研究主幹からの祝辞の後、近畿大学非常勤講師の中西敬氏が、「豊かな海を考え海へ恩返しする」と題し、ご講演されました。

その中で中西氏は、現在の淡路沿岸域や播磨灘を“やせた海”、大阪湾を

“メタボな海”〈左表参照〉であると、分かりやすく説明されました。また豊かな海づくりの取り組みとして、①干

潟の造成、②ウチムラサキ放流等による二枚貝の増殖、③やせた海へ栄養塩を送るため、ダム・ため池の放流、④生活排水の中で、海に使用できるものを抽出する為の下水処理・放流方法の変更、⑤海流全体の流れの制御などを挙げられました。

講演中は、皆が興味をもって、熱心に話を聞いていました。豊かな海を取り戻す為、今我々が出来る事をやっていきたいものです。



西岡会長の挨拶

### ＜メタボな大阪湾＞

食べすぎ	→ 流入負荷
運動不足	→ 波・流れが小
高脂血症	→ 富栄養化
高コレステロール	→ ヘドロ
出血	→ 赤潮
顔面蒼白	→ 青潮
腎臓・肝臓障害	→ 浅場がない

## “なぎさの守人” シンポジウム2010 —藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯の保全活動事例発表会—

平成22年1月25日(月)「“なぎさの守人”シンポジウム2010—藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯の保全活動事例発表会」が、神戸市内のホテルにおいて、近畿・中国・四国ブロックの関係者ら約100名の参加のもと行われました。

この発表会は、平成21年度よりスタートした水産庁補助事業である環境・生態系保全活動支援推進事業に参加している活動組織が、交流や意見・情報交換を行うことを目的に開催され、本県を含めて4県より5活動組織の発表がなされました。(発表グループは右表のとおり)

本県においても、現在15組織が活動しており、今回は、“明石地区明石西部豊かな海を守る会”の副代表であるJF西二見の山本章等組合長が発表しました。この中で、「豊かな海を実現するために、海底耕耘と二枚貝放流を実施し、ノリの色落ち防止と貝の増殖による水質浄化に取り

組み、効果も徐々に出てきており、今後も継続していきたい。」と述べられました。

結果として、過去からの実績の積み上げがあった“山口湾の干潟を守る会”が3月に開催予定の中央大会へ選出されましたが、“豊かな海”を取り戻すべく、県内各地で今後もさまざまな環境保全対策の取り組みが実施される予定で、将来に期待が膨らみます。

### 発表グループ

- ① 山口湾の干潟を守る会(山口県)
- ② 日生藻場造成推進協議会(岡山県)
- ③ 尾道地区干潟保全活動組織(広島県)
- ④ 北浦地区藻場保全グループ(山口県)
- ⑤ 明石地区明石西部豊かな海を守る会(兵庫県)



JF西二見 山本組合長の発表



発表会の様子

# “第34回 淡路のり品評会”

## 優秀品24点が選ばれました。

去る2月3日に淡路水産センターにおいて恒例の“淡路のり品評会”が開催されました。

今年で34回目となる(社)淡路水交会主催によるこの品評会は、色落ちや、産地間競争の激化など、ノリ養殖経営がますます厳しさを増す中、安心、安全、高品質なノリ作りを目指す生産者にとって意識の再確認を図るという重要な役割を担っています。

今回出品された乾海苔は、12月上旬より1月中旬までに製造されたもので、島内より85点が出品され、第1次審査で50点に絞られた中から、当日、県、業界団体の代表やのり検査員による第2次審査が行われました。出品された乾海苔はどれも「淡路のり」らしい製品であり、特に上位の製品については品質も揃っており、どれも甲乙つけがたいものでした。

審査の結果、兵庫県知事賞のこんや水産(JF室津浦)を始め24の賞が決定し、JF兵庫漁連のり海藻事業本部の高瀬博文本部長から「いずれもすばらしいもので、生産者の皆様の熱意とご努力に敬意を表します。」と講評が発表されました。



審査の様子

### 第34回 淡路のり品評会審査結果表

(敬称略)

賞の区分	漁協名	経営体名	代表者名	賞の区分	漁協名	経営体名	代表者名	
兵庫県知事賞	室津浦	こんや水産	松下時久	兵庫県漁業共済組合長賞	一宮町郡家	寿水産	松本秀樹	
兵庫県議会議長賞	森	和四郎水産	森博司		富島	福吉水産	西條和明	
兵庫県淡路県民局長賞	一宮町郡家	伊藤水産	伊藤幸弘		一宮町江井	塩田水産	塩田真規	
兵庫県漁業協同組合連合会長賞	五色町	五色水産	松下幸夫	全国共済水産業協同組合連合会 兵庫県事務所長賞	一宮町江井	河野水産	河野崇起	
兵庫県立農林水産技術総合センター所長賞	森	真留水産	森正之		一宮町江井	マル大水産	大塚智数	
兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所長賞	一宮町江井	ヤマカ水産	大塚茂弘		一宮町江井	ヤマニ水産	東條孝彦	
島内市長賞	洲本市長賞	炬口	ちくば水産	竹岡千尋	兵庫県内海漁船保険組合長賞	育波浦	柿本水産	柿本幸久
	淡路市長賞	富島	瀬戸内水産	西條利幸		室津浦	海栄水産	連忍
	南あわじ市長賞	湊	三共水産	山形和二郎		室津浦	幸洋水産	南浩功
兵庫県信用漁業協同組合連合会長賞	室津浦	沖水産	沖元毅	社団法人 淡路水交会会長賞	一宮町郡家	マル祐水産	石上宗一	
	浅野浦	森水産	森司佳幸		五色町	大橋水産	大橋盛夫	
	森	栄住水産	森活住		南淡	北西水産	北本勉	

### お詫び

1月号の平成21年度「ひょうご海の子」作品受賞者決定!!記事の作文部門の表に誤りがありました。ここに訂正して再掲載の上、関係者の皆様へお詫び申し上げます。

### 【作文部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	お名前	題名
兵庫県知事賞	香美町立香住第一中学校	1	堀名真祐	私は海の子
兵庫県教育長賞	南あわじ市立辰美小学校	1	西田拓海	おとうさんはりょうしさん
JF兵庫漁連会長賞	南あわじ市立沼島小学校	3	平井璃乙	お父さんのがんばり
	洲本市立洲本第一小学校	6	榎本麻由	私の地引きあみ体験
	香美町立香住第一中学校	2	麻田まい	香住の漁業
JF兵庫女性連会長賞	淡路市立郡家小学校	3	石上大将	ぼくのとうちゃん
	三田市立武庫小学校	5	福本あゆみ	守りたい。みんなの海
	小野市立小野中学校	1	稲岡優衣葉	海を守ることに森をつくること
JF兵庫信漁連会長賞	淡路市立石屋小学校	2	東根正弥	海とおんだんか
	三田市立学園小学校	5	宮井ゆう菜	海っていうのはこんなもの!

# 平成22年度兵庫県漁村子弟育英生募集

(財)兵庫県水産振興基金

(財)兵庫県水産振興基金では平成22年度育英生を次のとおり募集します。

## 1. 応募資格

- ①県下の漁業協同組合又は別記団体に所属する「組合員」、「職員」の「子弟」、「遺族」であり、高校又は大学等に在学(入学予定)し、所属団体長が育英生として適当と認めた者。
- ②ただし、日本学生支援機構等から奨学金を受けている者は、本基金の育英生になることが出来ません。

## 2. 貸与金の額

学 別		貸与月額
大学生		25,000円
高校生	寄宿生	25,000円
	通学生	20,000円

## 3. 申込方法

所属組合を通じて「漁村子弟育英生申込票」、「貸与申込書及び添付書類」を提出して下さい。

提出期日	漁村子弟育英生申込票	平成22年3月31日
	貸与申込書及び添付書類	平成22年4月28日

## 4. 育英生の採用決定

本基金選考基準により審査のうえ採否を決定し、5月上旬頃に所属組合を通じて連絡します。

## 5. 育英資金の貸与方法

所属組合を通じて、前期分・後期分をまとめてそれぞれ6月・12月に貸与します。

## 6. 貸与金の返還方法

- ①貸与金は無利息とし、貸与期間終了(卒業)後、1年間据え置き2年目から返還です。
- ②所属組合を通じ、貸与金額に応じて5～10年間の返還となります。

## 7. お問い合わせの方法

詳細については、組合担当者を通じて、当基金までお気軽にお問い合わせ下さい。

なお、「しおり」を各組合あて送付していますので、併せてご覧下さい。

### ※別記団体

兵庫県漁業協同組合連合会 兵庫県信用漁業協同組合連合会 兵庫県漁業共済組合 共水連兵庫県事務所  
兵庫県漁業信用基金協会 兵庫県内海漁船保険組合 但馬漁船保険組合 (財)ひょうご豊かな海づくり協会  
(財)兵庫県水産振興基金 (社)播磨漁友会 (社)淡路水交會 由良町漁業協同組合連合会

## 税務署からのお知らせ

- 平成21年分の所得税と贈与税の申告と納税は、**3月15日(月)**まで、消費税及び地方消費税は**3月31日(水)**までです。
- 税務署では、便利・安心・確実・手続簡単な預貯金口座からの自動引落しによる『振替納税』をお勧めしています。『振替納税』ですと、所得税は**4月22日(木)**に、消費税及び地方消費税は**4月27日(火)**に口座振替となります。



e-Taxなら  
こないいいこと

- ①国税庁ホームページから電子申告
- ②最高5,000円の税額控除
- ③添付書類の提出省略
- ④還付金がスピーディー

詳しくは、国税庁ホームページをご覧ください。

確定申告

検索

## 三田で日本酒「屯田」誕生

農商工連携事業の一環として、地域農産物による特産品開発を目的にJA兵庫六甲と三田市内に飲食店を展開する(有)福助グループが、三田の特産品であるうるち米「どんとこい」を使った日本酒「屯田」を開発、商品化しました。昨年(2009年)12月に農協市場館パスカルさんだ一番館などで発売が開始され、「力強い酒」と好評です。

三田ならではの特徴ある商品をつくろうと、「どんとこい」の県内最大の生産地であり、学校給食用にも提供されているお馴染みの品種であることを生かして、昨年5月ごろより商品化の計画が進められてきました。昨年10月には酒用の米を収穫する稲刈体験教室が実施され、地産地消の取り組みにも期待が寄せられています。

1本(720ml)1,480円で、JA兵庫六甲の農協市場館パスカルさんだ一番館で販売されているほか、福助グループ店舗で飲むことができます。



<お問い合わせ>

農協市場館パスカルさんだ一番館

住所: 兵庫県三田市川除677-1

TEL: 079-563-7744

<http://www.ja-hyogo.or.jp/>

## 兵庫県生協連主催 「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催



開会の挨拶をする浅田会長理事

兵協連では、1月9日(土)兵庫県民会館において、今回で5回目の開催となる「新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。兵庫県から井戸敏三知事をはじめ7名の

兵庫県生活協同組



挨拶をされる井戸兵庫知事

の方々をお迎えし、会員生協の理事長を含む理事・監事・共栄火災海上保険株式会社、のべ70名のご参加をいただき、新年の決意を新たにする機会となりました。

新春トップセミナーには、厚生労働省社会・援護局地域福祉課地域福祉専門官・中島 修氏を講師に「地域福祉の進捗について(生協に期待すること)」と題して講演をいただき、高齢者の単独世帯・夫婦世帯が増加し標準化しつつある現状とそれに伴い都市部で進む急速な家庭の孤立化等に対する行政の取り組みについて、そしてその制度の外や谷間にあるニーズに対して生協に期待される支援や活動等についてお話をいただきました。会場では、メモを取りながら熱心に聞き入る参加者の姿が見られました。

セミナー後に開催された賀詞交換会では、兵庫県理事清原佳子様をはじめ、県の消費者行政をご担当されている方々にご参加いただき、新春トップセミナー参加者とともに、活発な交流がなされ年頭を飾るにふさわしい賀詞交換会となりました。



トップセミナーの様子

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

## 視力検査

◆視力検査と言えば、黒いシャモジで片目を塞ぎ一方の目で視力表のCマークの開いている向きを探したのを思い出す。この視力表はフランスの眼科医が考案し、国際眼科学会が視力検査の標準として定めた。線幅1.5mmで外形7.5mmの円に幅1.5mmの隙間を拵えてあり、5mの距離から見て正しく判断できれば視力1.0と定義している。このCマークは眼科医の名前をつけてランドルト環と呼ぶ。もし、こうした基準が無ければ自分の眼が良いのか悪いのか判断がつかず、近視の人はボンヤリ見える世界しか知らず過ごす事になる。

◆現代社会では、きちんと見えている事が前提となっており、必要なら矯正して適正な視力とする事が半ば義務付けられる。車を運転する場合、標識等が充分に見えていなければならず、運転に必要な情報の8割は視覚で得ている。ところが視力は他の機能と比べて、老化現象が早く来る。加齢と共に、動かない物も動いている物にも反応が鈍くなる。視力の衰えにより見落とし、運転技術の過信も手伝って、一時不停止や信号無視の交通違反を犯してしまう。うっかりミスが多くなる。自分を外敵から守ったり、危険を避けたりする察知能力も眼に負う所が大きく、視力は生活する上で最も重要なポイントなのである。

◆動きのある物体を見る能力は、スポーツ選手には重要である。自動車レース・テニス・野球の打撃などには、動体視力の善し悪しが大きく影響する。最近、70歳以上の自動車運転免許更新

には、動体視力測定を取り入れた適性検査が義務づけられた。真っすぐ前を向いて認識できる範囲が《有効視野》で、車の運転には欠かせない。有効視野が最も広く見えるのは18歳から30歳位、それを過ぎると視野は狭まり、高齢者では左右方向がズンと狭くなる。そして高齢では瞬発力の衰えもあって動作が鈍くなり、運転技能に大いに関わってくる。

◆人が肉眼で捉えられる最小粒子は、凡そ直径0.2mmというが大抵の人は1mmより小さいと、明確には識別不能である。日本人は約半数が近視だというのが、新生児では遠視傾向にあって、成長に従い多くは正視になる。残り何%かが近視と遠視に分かれるが、この分岐点にある時期、近くにピントを合わせた時間が長いと、その状態を目標として眼が成長して仕舞う。日本人が漢字を使う事も近視の多い原因だそう。近視は手先にピントが合って疲れにくく、細かな作業に巧みで、遠くを見る場合のみ眼鏡で調節すれば済む。近視は寧ろ歓迎すべき事かも知れない。《眼は心の窓》という。大切にしたいとつくづく思う。



夏みかん（稲美町加古にて）

# 大輪田塾だより

## 「株フジッコ工場」と「関西学院大学」訪問

1月26日(火)の大輪田塾は訪問研修となり、今回は第4期生2名、第5期生4名が参加しました。



株フジッコでの講義の様子

前半は、西宮市鳴尾浜の株フジッコ鳴尾生産事業部を訪問し、日配品や袋詰製品の生産ラインの見学と特に食の安心安全の観点から異物除去の検査体制を学び、後半は、

西宮市上ヶ原の関西学院大学を訪問し、大輪田塾講師団顧問でもある田和正孝教授より、所蔵する明治時代に作成された「兵庫県漁具図解」から見えてくる漁法の変遷や、現在は失われた漁法を実物を見ながら学びました。



「兵庫県漁具図解」現物を見る

塾生たちは、日配品の食材の手配から従業員の雇用問題に至るまで質疑を繰り返していました。

### 表紙の言葉



### 「第34回淡路のり品評会」

2月3日開催された淡路のり品評会で、出品されたのりを手に審査される、JF兵庫漁連山田会長をはじめとする審査員の方々。